

飛び超えて学ぼう。
学んでつながろう。

Super Jump and Learn and Connect.



超福祉の学校@SHIBUYA
～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～
実施報告書

開催概要

< イベント概要 >

障害の有無を超えて、共に学び、つくる共生社会フォーラム

障害の有無にかかわらず、共に学び生きる共生社会の実現を目指し、NPO法人ピープルデザイン研究所と文部科学省の共催で、2018年より実施しているフォーラムイベント、「超福祉の学校」。

毎年、「超福祉展」期間中の土日の2日間で、障害のある人、支援者、教育関係者等がシンポジウムやトークセッションを通じて思いを発表し、学びあう場を提供してきました。2021年からは弊社主催、文部科学省、渋谷区を共催で、タイトルを「超福祉の学校@SHIBUYA」とし、“after超福祉展”企画のひとつとして引き続き展開していきます。

< 開催期間 > 2021年9月18日(土)、9月19日(日)

< 配信会場 > 渋谷ヒカリエ8F「8/」COURT

< 参加者数 > 約9千7百人（会場 約100人、視聴者数 約9,600人）

< HP > 約5万のページビュー（1万3千人のユーザーからのアクセス）

< SNS > Facebook：約19万8千 Twitter：約19万8千 Instagram：約2万9千

< 露出媒体数 > 27（ラジオ：5 公共広告：1 WEB：21）

< 媒体換算額 > 約 632万円

※ 数字は全て2021年10月末日時点のもの

※ YOUTUBE視聴者数は月に5百人程度伸びています。

本年は 合計 12社 と、大変多くの皆様にご支援・ご出展・ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

< 共催：2社 >



< 特別協力：2社 >



< 協賛：1社 >



< 協力：7社 >

協力



CAMP4



ホームページ・SNS・露出媒体

< 露出媒体 > 27 (ラジオ : 5 公共広告等 : 1 WEB : 21)

※ 2021年9月末現在

< 媒体換算額 > 632万円

[ラジオ]

4

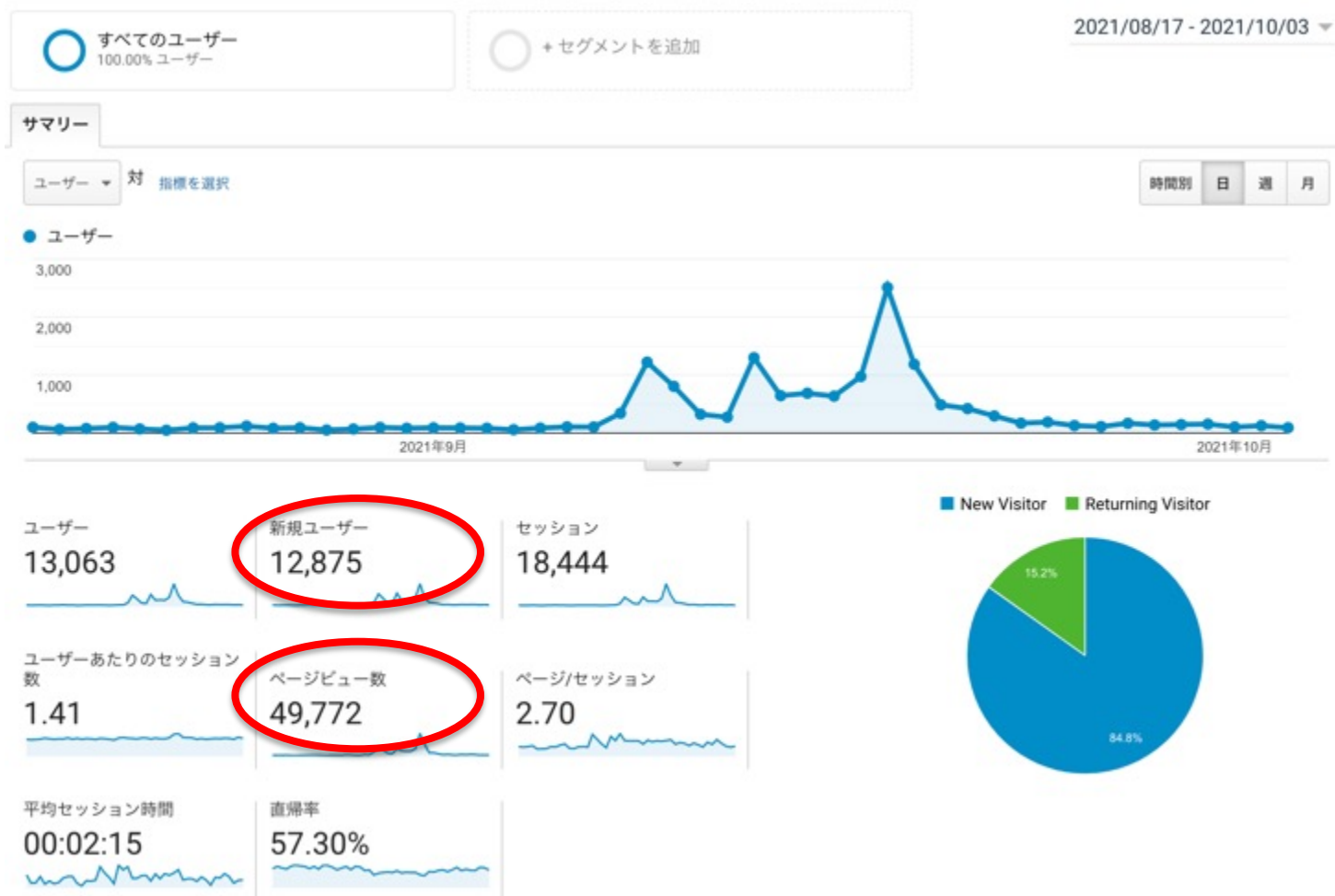
NO	放送局	OA日	ヘッドライン	時間帯	露出尺	媒体名
1	渋谷の超福祉ラジオ	2021/8/26	ゲスト：山岡仁美（株式会社グロウスカンパニー代表取締役）	木曜日 10:00-10:55	5分	【ラジオ】
2	渋谷の超福祉ラジオ	2021/9/2	ゲスト：笹尾 実和子（一般社団法人 Think the Earth）	木曜日 10:00-10:55	5分	【ラジオ】
3	渋谷の超福祉ラジオ	2021/9/9	ゲスト：戸取瑞樹（株式会社 MUZIKKA）	木曜日 10:00-10:55	55分	【ラジオ】
4	渋谷の超福祉ラジオ	2021/9/16	ゲスト：たまおひろこ（カウンセラー・コーチ）	木曜日 10:00-10:55	55分	【ラジオ】
5	渋谷の超福祉ラジオ	2021/9/30	ゲスト：タキザワケイタ	木曜日 10:00-10:55	55分	【ラジオ】
6						【ラジオ】

[WEB]

NO	媒体社名2	掲載日	タイトル	URL	媒体名
1	文部科学省	2021/9/9	超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～の実施について	https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00743.html	【WEB】
2	文部科学省	2021/9/20	「超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～」開催報告	https://www.mext.go.jp/a_menu/kusei/gakusyushien/1419088_00002.htm	【WEB】
3	渋谷七カエ	2021/8/25	【オンライン開催】超福祉の学校 2021@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～	https://www.hikarie8.com/court/2021/08/-2021shibuya.shtml	【WEB】
4	Reseed 教育業界ニュース	2021/9/10	文科省共催「超福祉の学校@SHIBUYA」9/18・19、予約不要	https://reseed.resemom.jp/article/2021/09/10/2257.html	【WEB】
5	全国福祉高等学校校長会	2021/9/10	「超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～」	https://koko-fukushi.org/%E3%80%8C%E8%B6%85%E7%A6%8F%E7	【WEB】
6	Wheelog!	2021/9/10	【9月18日(土)】超福祉の学校@ SHIBUYAのお知らせ	https://wheelog.com/hp/archives/20724	【WEB】
7	NIKKYO WEB	2021/9/9	共生社会を目指す活動など「超福祉の学校」で報告、オンライン形式で18、19日に開催	https://www.kyoiku-press.com/post-234542/	【WEB】
8	Gov base	2021/9/9	超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～の実施について	https://www.gov-base.info/2021/09/09/128685	【WEB】
9	教育新聞 WEB	2021/9/21	ICTで広がる特別支援教育「超福祉の学校」で実践発表	https://www.kyobun.co.jp/news/20210921_02/	【WEB】
10	Jリーグ 藤枝MYFC	2021/9/17	「超福祉の学校」オンラインイベント 開催のお知らせ	https://myfc.co.jp/news/20210917/1118929/	【WEB】
11	四谷学院WEB	2021/9/14	超福祉の学校2021オンライン開催決定！	https://votsuvaakuin-ryoiku.com/blogs/cho_fukushi2021/	【WEB】
12	AVENIR (芸能プロダクション) ブログ	2021/9/20	神子彩がLIVE配信「超福祉の学校」に出演	https://ameblo.jp/avenir2017/entry-12699010745.html	【WEB】
13	AlonAlon	2021/9/21	超福祉の学校@SHIBUYAに登場しました	https://www.alon-alon.org/news/detail238.html	【WEB】
14	ポランの広場 福祉情報工学と市民活動	2021/9/21	「超福祉の学校2021」支援学校等の児童生徒のテクノロジーを活用した社会参加	https://www.poran.net/ito/archives/20767	【WEB】
15	学教くん.com	2021/9/10	文科省共催「超福祉の学校@SHIBUYA」9/18・19、予約不要	https://www.gakkyo-kun.com/resemom/?id=2257&rss=2	【WEB】
16	ボイスカウト沖縄連盟	2021/9/10	「超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～」案内	https://bso.ti-da.net/a12030684.html	【WEB】
17	キナリ	2021/9/13	9/18(土)「超福祉の学校」にて、ヘラルドこー松田崇弥さんとトークイベントに登場します	https://kishidanami.com/news/91vvr	【WEB】
18	eduon! 教育情報ポータルサイト	2021/9/10	「超福祉の学校@SHIBUYA～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～」を実施へ	https://eduon.jp/news/other/20210910-011185.html	【WEB】
19	bauhaus	2021/9/21	9/18 超福祉の学校@SHIBUYAオンライン開催決定！『アルビレックス新潟×障がい者就労体験プロジェクト』の報告会が行われました。	https://www.bauhaus-niigata.co.jp/news/1403/	【WEB】
20	PLAYERS	2021/9/9	【ワークショップ】超福祉の学校【障害×対話】障害者からの問いかけワークショップ開催！	https://www.players.or.jp/post/210909	【WEB】
21	ソフトバンクニュース	2021/10/7	デジタルが未来の可能性を広げる。特別支援教育でICT活用「デジタルの日」	https://www.softbank.jp/sbnews/entry/20211007_01	【WEB】

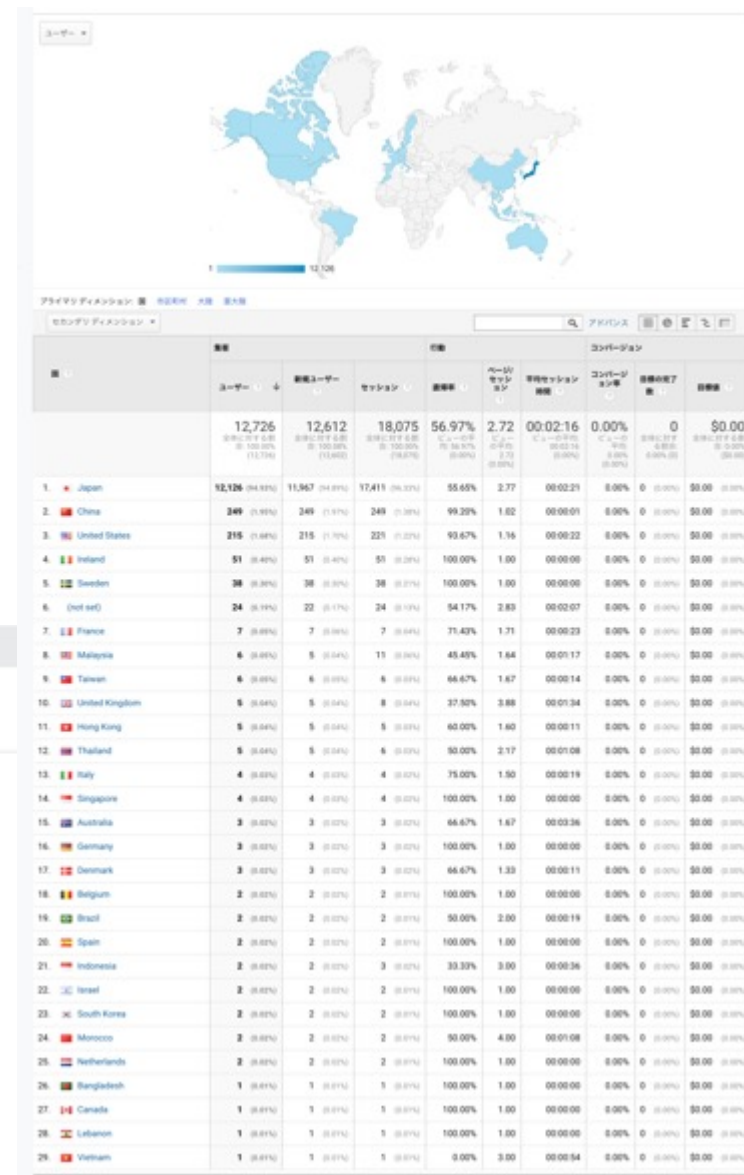
URL : <http://peopledesign.or.jp/school/>

- ・ 8月27日にTOPページを公開し、9月8日からコンテンツを本公開
約 5万 ページビュー数があり、約 1万3千人 が訪問



URL : <http://peopledesign.or.jp/school/>

- ・日本各地、北は稚内市、南は那覇市までの600以上の市区町村からのアクセス、
加えて海外 29か国からのアクセスを確認
- ・国内アクセスが多かったトップ10は以下の市区町村
 横浜市、大阪市、新宿区、港区、世田谷区、名古屋市、渋谷区、札幌市、さいたま市、川崎市



facebook、Twitter、Instagramを活用したSNSでの告知は、**総投稿数約578**、**総閲覧数42万5千**となった。
 また「#超福祉」「#超福祉展」を含む投稿は合計で**約2千9百件**となった。

	投稿数	「#超福祉」「#超福祉展」を含む投稿	閲覧数
Facebook	約269	約1200	約19万8千 (昨年比1.6倍、12万8千)
Twitter	約154	約1400	約19万8千 (昨年比0.87倍、約22万7千)
Instagram	約155	約350	約2万9千 (昨年比1.9倍、1万5千)

Twitterのアナリティクス

過去28日でのパフォーマンスの変動



Sep 2021 - 29日間

ツイートの概要

トップツイート 49,173件のインプレッションを獲得しました

【#超福祉の学校 シンポジウム紹介】

9/18(土)17:00- テーマは『障害×テクノロジー』。
テクノロジーの力で障害を超え、積極的に社会参加していくために必要なことは？

OriHime開発のオリイさん@origamicat、@WheelLog_Appの織田さん@yurik00daにもご登壇いただきます。
peopleledesign.or.jp/school/symposi...

👁️ 33 🍀 127

全てのツイートアクティビティを表示

ツイートアクティビティを表示

トップの@ツイート 37件のエンゲージメントを獲得しました

ePARA **バリアフリーeスポーツ ePARA オフィシャル**

@ePARA_official · 9月14日

#超福祉の学校
が今週末開催されますね🎉

@Superwelfare #文部科学省 #渋谷区 の共催で
全国各地の共生社会の実現に向けた具体的なアクションや、障害者の生涯学習などの取組を、全国に発信されるそうです

#超福祉展 も聞き易い内容だったので学ぶのが楽しみです🎉

peopleledesign.or.jp/school

👁️ 4 🍀 17

TWITTER広告 (セルフサービス)

ツイートをより多くのユーザーに届けましょう

プロモツイートおよびコンテンツをもっと多くのTwitterユーザーに届けましょう。

はじめ

SEP 2021の概要

ツイート **83** ツweetインプレッション **138,034**

プロフィールへのアクセス **8,737** @ツイート **7**

新しいフォロワー **115**

Instagramのアナリティクス

過去30日間

8月30日 - 9月28日

インサイト概要

7月31日 - 8月29日と比較してコンテンツでのインタラクションが**+16,033%**増加しました。

リーチしたアカウント数 **1,753** **+1,847%**

コンテンツでのインタラクション **484** **+16,033%**

オーディエンス

合計フォロワー **595** **+11.8%**

シンポジウム

< 超福祉展YOUTUBEチャンネルについて >

・ 9月16日の超福祉の学校@SHIBUYA公式HPにあわせて、
YOUTUBEにて超福祉の学校@SHIBUYAチャンネルを公開。

・ 9月末日現在

チャンネル登録者数 294人

約8,400人からのアクセス

・ 視聴者の年齢属性は、40代～50代が最も多く、

次いで30代～40代が多く、働く世代に多く視聴されている。

<年齢層>



< 超福祉の学校YOUTUBEチャンネル 視聴QRコード >



実施内容とアンケート結果

< 実施内容 >

プログラム数 : 10 枠
 登壇者数 : 35 名 (うちリモート登壇者は7名)
 企業・団体数 : 7

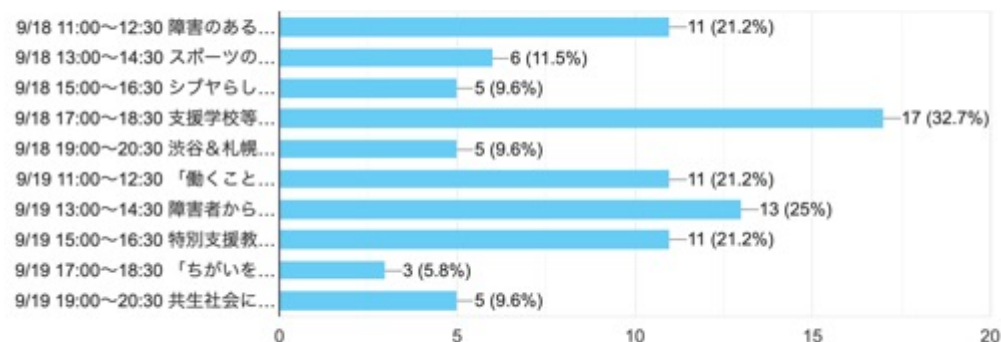
< 会場・配信の様子 >



< アンケート結果 > (有効回答数52)

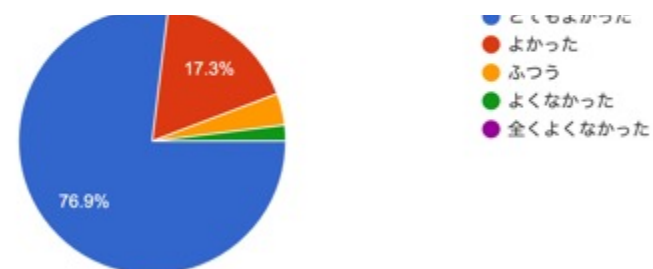
Q1. ご視聴いただいたシンポジウムをお選びください。

「支援学校等の児童生徒のテクノロジーを活用した社会参加」がトップ



Q2. 当シンポジウムは、全体を通していかがでしたでしょうか。

とてもよかった、よかった合わせて約95%。
 よくなかったという回答も1件あった。

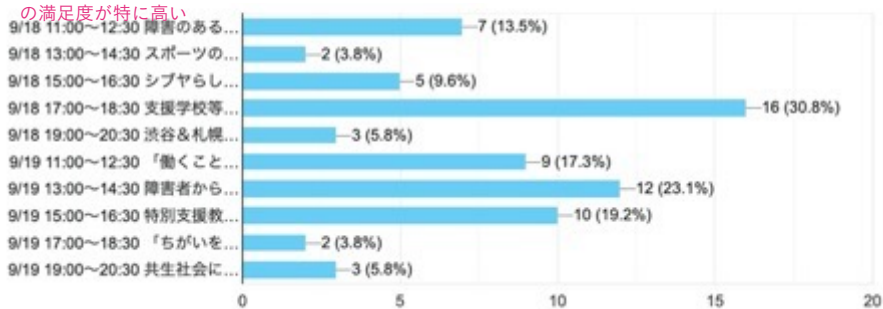


< アンケート結果 > (有効回答数52)

Q4. ご視聴いただいたシンポジウムの中から特に印象に残ったシンポジウム、満足度の高いシンポジウムがあればお教えてください。



「支援学校等の児童生徒のテクノロジーを活用した社会参加」、「障害者からの問いかけワークショップ」、「特別支援教育におけるICTの活用～学びそして自立へ～」、「働くこと」と「余暇を楽しむこと」



Q5. ご視聴いただいた中で、特に印象に残っているワードや、今回ご参加いただいたことによる学びや気づきがありましたらお教えてください。

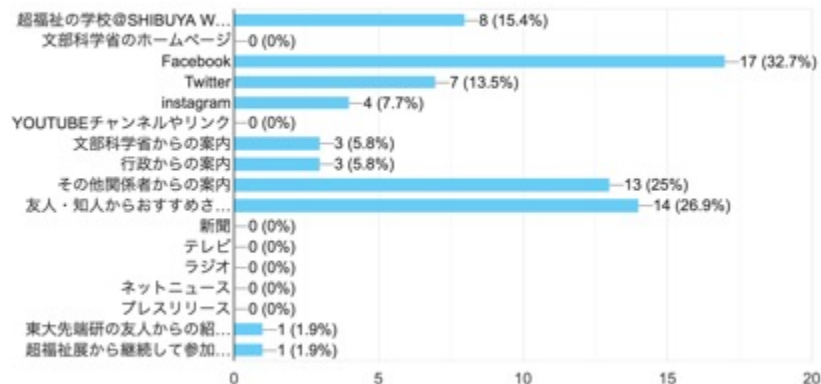
- ・ICTが役に立っていると感じました
- ・障害をお持ちの方をご支援するテクノロジーがあることを知っているだけでも、諦めない気持ちがうまれる。
- ・いかにたくさんの方にチャレンジさせる機会を、親や周りの大人が与えられるか、その中から子どもがやりたいことを選び続けていくことができるかが大切だと感じた。
- ・聴覚障害のある方の問いに上手く答えられず、また、良い対話が行えなかったような気がするので、その点が少し残念でした。
- ・「視覚障害者がコンビニで好きな味のおにぎりを選べないストレス」
- ・深く考えずに何でもやってみる！
- ・当事者本人の発信をきっかけとした情報共有が、社会変容に繋がる可能性を感じました。
- ・ロボットを活用した社会参加や車いす
- ・超短時間雇用、ICT活用、学びの多様性、人との繋がりが広がる世界、就労体験（ワクワクから）いずれも、重度重複障害者の21歳の娘の学びを考える時、とても大切なお話しばかりでした。全国各地のこのような動きは、まず娘と個人的に動きく事でも、変わってくる事かもしれないと思います。人と繋がりがり、学びを止めず、娘が自立できるような道作りしていきたいです。
- ・超短時間雇用と積算雇用率
- ・学びの多様性

- ・私も常に普通ってなんだろうという疑問のもとで生活しています。結局のところ普通なんて存在しないし、障害というものがあるなしに関わらず幸せになることはできるはずだと考えていましたが、今回の話を聞いて自分の意見と同じ人がいるんだと嬉しく思いました。また、こういう考え方を持つ人が1人でも増えてきたらきっと素敵な世の中になると思います。
- ・障害者という枠をなぜわざわざ組まなければならないのでしょうか。インクルーシブな時代にふさわしいこれからの組み合わせに期待したい。
- ・支援学校の可能性を感じたことと学校の先生の実際の様子がわかってこれからの課題もあることに気づきました。
- ・コミュニケーション、手話
- ・盲の方へお手伝いを申し出るときに「私につかまってください」と声かけをすること。介助される方が主体だということを忘れないようにします。
- ・人が集まってくる人になる
- ・支援学級で生徒1人に対し先生が1人ついているものの、テクノロジーなどをフル活用し生徒の可能性を引き出し切れていない現状があることや、Wheelogの取り組み、分身ロボットによって行動範囲が広がったり雇用につながったりしていること、トイレの不便さが外出のハードルを上げていることなど。
- ・健常者側として参加した方たちも色々な背景の方がおり、障害者と健常者という区別はナンセンスになっていくのだなと思いました。
- ・親が心配しすぎて子供の成長を止めてしまっている
- ・障害のある子の能力を、周りの大人（支援者）が信じること。
- ・成功はできないけど、成長できる
- ・コンビニでのおにぎりをどんなふうを買えばいいのか、悩んだ。視覚障害者の立場で。
- ・持続可能性
- ・「レガシー」
- ・障害者当事者から 社会参加の壁を乗り越える アイデア出来た良かった。
- ・学校Wi-Fi繋げない話！セキュリティ面などご検討いただき、なるべく早く繋がらせて欲しいです また学校支給の端末はせっかく1人一台なのに、アプリ等でカスタマイズ出来ない（特に有料アプリ）ノートアプリとか、シンプルマインドとかは入れたいです
- ・やりたい人はやればいいし、そのための選択肢がたくさんあることが大事である。
- ・やりたい人を応援する。やりたくない人には無理にやらせない。応援したいと思ったら素直に応援するし、興味がなければそれまで。シンプルなことです。「見えないのに凄い」「車椅子なのにすごい」論調をなくし、その人「個人」を見られるような社会に変えていくことが大事です。
- ・自分は精神障害があるのですが、自分とは違う障害を抱えている人の目線に立って考えることができ、その人にとって何が本質的な障害なのかを知るきっかけになりました。
- ・患者力 織田友里子さんすごく素敵です。皆さん、自然体で嬉しくなりました。
- ・障害者は先を行く人：困り事を把握+発信できる。強みを発見+力にできる。
- ・将来を見据えた支援は宝ですね。

< アンケート結果 > (有効回答数52)

Q6. 「超福祉の学校@SHIBUYA」の開催を何で...したか。ご覧になったものをすべてお選びください。

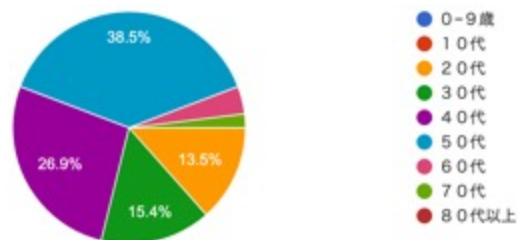
SNSではfacebookがトップ、そのほかは口コミ、紹介の効果が良かった



Q8. 視聴者層に合う、より良いコンテンツを検討...め、差し支えなければ、年代をお教えてください。

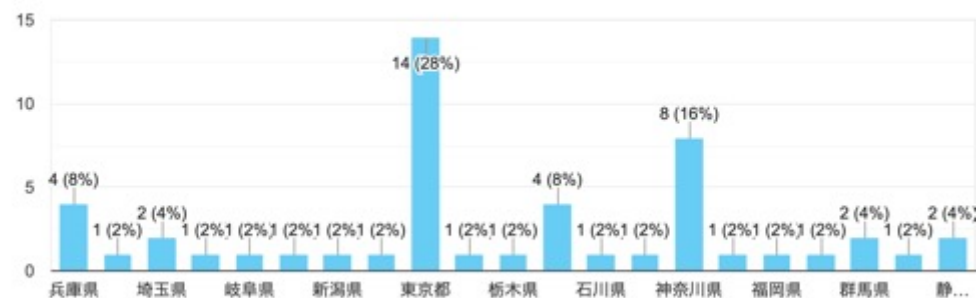
52件の回答

40代、50代が65%を占めるが、20代、30代の参加も30%あった。



Q9. お住まい、もしくはご視聴いただいた都道府県をお教えてください

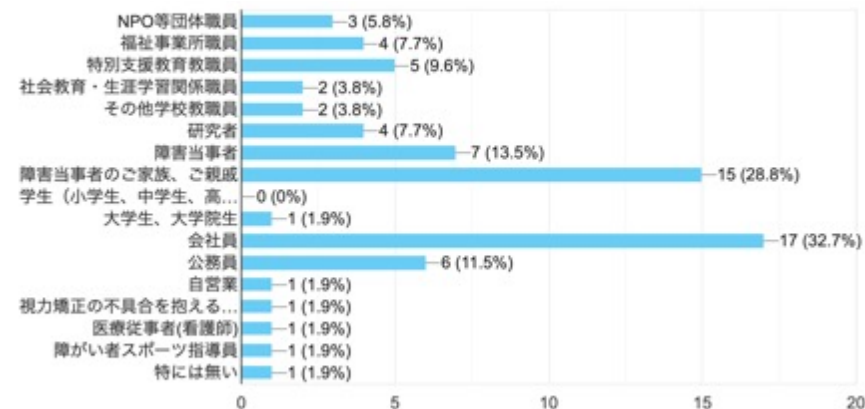
東京、神奈川、兵庫からの参加率が高い



Q10.

視聴者層にあったより良いコンテンツを検討するた...はまるものにチェックをお願いします。(複数可)

公務員と、当事者のご家族が多い



<アンケートの感想> (イベント全体感想)

- ・考えるきっかけができ、知らないこと新しい発見がありました。吉藤オリィさん、岸田奈美さんについてよく情報を追っています。自分に何ができるかをかんがえるようになり良い言葉に巡り会えています。YouTube配信はとてもいい機会でした。ありがとうございました。(40代/障害当事者のご家族)
- ・明るい未来が見えました。(50代/障害当事者のご家族)
- ・障害をお持ちの方の声を普段以上に知ることができてとてもよかった。(40代/会社員)
- ・来年こそリアルでお話を聞いて質問したりしたいです。(50代/会社員)
- ・色んなお話を聞けました。(20代/障害当事者)
- ・いくつかのシンポジウムを視聴して普通概念に疑問を感じる方たちが登壇していたことがいいと思った。観客席も少しほしかった。(40代/自営業)
- ・当事者の意見に気づかされることや支援する周囲の方々の活動の様子などが良く分かりました。このような場がないとどうしても自分の職場(特別支援学校)だけの視野だけになってしまいがちなので。ロボットを活用した社会参加や車いすについての話が印象に残った。超福祉の学校について、知っている人は知っているが知らない人は知らないままの状況があるのでは？もっとPRが必要なのでは？(60代/特別支援教育教職員)
- ・とてもおもしろかったです。最初と途中で、音が出なくなったことがあって、ちょっぴり残念でした。(40代/障害当事者)
- ・聴覚障害者のため、ライブトークを頼りに視聴していました。文字がとても小さく読みづらかったです。また、話者名を入れていないため、誰が話しているのかわかりにくい時がありました。例えば「田中/ 」と
 いうように、話者を入れていただくとありがたいです。また内容によっては、手話通訳も導入していただくと、より理解が深まります。ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。(40代/障害当事者)
- ・自身の調子が悪く、他のイベントを拝見できなかったのが残念です。配信が始まったら、閲覧しようと思うので、Youtubeにあげてくださるのがありがたいです。(40代/福祉事業所職員、研究者、会社員、障害当事者、障害当事者のご家族)
- ・冒頭、字幕が出なかったり、大きさ、見やすさへの検証が足りないように思いました。せっかくの超福祉展なので、アクセシビリティにはもっと丁寧に取り組んでいただきたいです。話者名をつけてほしいというコメントに、「映像が切り替わります」と回答がありましたが、ちょっと配慮がないのでは？
 なんとかでしょうか。そうですね。はい。というふうに1行の中に複数の発言が混ざってしまっています。話者名を入れることが難しければ、発言のたびに「栗栖です」と名乗ることを徹底する方法もあります。とても良い内容なので、手話通訳を入れることも今後はご検討いただきたいです。オリパラの開閉会式でもEテレで手話通訳がついたのですから。(40代/NPO等団体職員、研究者、障害当事者)
- ・時間がかかっても多様性への理解が浸透することを願い、私自身も一歩ずつ確実に進もうと思います。(60代/障害当事者のご家族)

実施内容とアンケート結果

・コンパクトにまとまった内容なので、とても拝聴しやすかったです。超短時間雇用、ICT活用、学びの多様性、人との繋がりから広がる世界、就労体験（ワクワクから）いずれも、重度重複障害者の21歳の娘の学びを考える時、とても大切なお話ばかりでした。全国各地のこのような動きは、まず娘と個人的に動く事でも、変わってくる事かもしれないと思います。人と繋がり広がり、学びを止めず、娘が自立できるような道作りしていきたいです。（50代／障害当事者のご家族）

・オンラインにも関わらず、密度の濃い内容で、多くの気づきをいただきました。サプライサイドの視点が中心になりがちな既存の福祉を超えるというコンセプトが、明快に具現化されていたと感じました。（40代／学校職員）

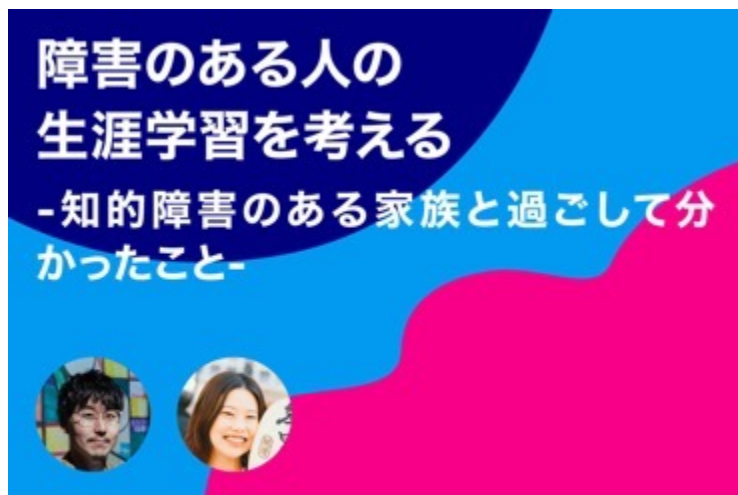
・視聴させていただいたシンポジウムはどれもわかりやすく、考えさせられる内容でした。発達障害児の母ですが、そうそう！そこがモヤモヤしていた！と共感し、自分自身が何をできるかを考えるヒントが沢山ありました。健常者目線ではなく、弱者目線で物事を考える・捉えることが大事なんだと気付きを与えてもらえました。コロナ禍なので、オンライン開催はすごくありがたいです。実際に会場に足を運んで、生でお話を伺いたいと思うところもありますが、実際には疲れてしまうことが多く、時間の制約もあるので、YouTubeで視聴できたことで多くのシンポジウムを観ることができました。シンポジウムのタイトル、どれもこれも堅いイメージで、タイトルだけでは全く興味がわきませんでした。でも、見てみたら新しい発見沢山で良かったです。（50代／障害当事者のご家族）

・時間がかかっても多様性への理解が浸透することを願い、私自身も一歩ずつ確実に進もうと思います。（60代／障害当事者のご家族）

・コロナでなければヒカリエのような場所には若い人たちがもっとたくさんいて、このようなイベントにふらっと参加してくれたのではないかなと思うと残念。（50代／会社員）

・我が家も進学するにあたり、特別支援学校も視野に入れていました。見学に行き、今時、陶芸？革？と感じたこと、ICTを使った教育も少なく、卒業してすぐ就職というつまらない高校生活になることに抵抗を感じて、別の進路を選択しました。軽度知的を持っていますが、知的な遅れや障害があり、定型発達の子より我慢することも多いのに、なぜ、定型発達の子よりも早く大人にならなければならないのか？その世の中の仕組みが納得できずにいます。その中で、GAYAさんやみらいつくり大学さん、オリィ研究所さん、WheelLogさん、などなど色々な支援や学びを考えてくださる場所があり、まだまだ頑張れる！と思います。

（50代／障害当事者のご家族、会社員）



2021.9.18.(sat) 11:00-12:30

主催：株式会社ヘラルボニー

< 視聴者数 >

■配信時の視聴者数 : 357人

■9月末時点の視聴者数：2,580人

■視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



< 概要 >

「障害のある人の生涯学習」をテーマに、松田氏と岸田氏が、知的障害のあるきょうだいと共に過ごしてきたことで知った多くの気づきと、生涯学習の原点とも言える「家族」の話を交えながら、これからの社会について語りました。

< 登壇者 >

■株式会社ヘラルボニー代表取締役・CEO

松田 崇弥 氏

■作家

岸田 奈美 氏

< 会場・配信の様子 >



<アンケートの感想>

- ・愛の溢れるトークでした。特に松田さんのお話がとても聞きやすく、素敵な時間でした。(30代/障害当事者)
- ・親として子供がどう感じていたのか今悩んでいます。
とても力強いお話で、羨ましい。(50代/障害当事者のご家族)
- ・なんだかとても羨ましい話ばかりです。正直落ち込んでます。脳性麻痺ですが、小中高校短大と出ましたが、今CORONAで行き場所がなくずっと引きこもり状況。
中学の時のいじめの記憶がよみがえるばかり。全然楽しくない~(^_^;) (20代/障害当事者)
- ・講演ありがとうございました。
当事者家族として聞いていて、気持ちがすっとしました。
色々な立場の人の存在や日常を認め合える細やかな配慮のできるお二人。言葉にし発信してくださり、ありがとう！
生涯学習の話が少なかったけれど、社会の中でご兄弟が経験されている事、守りすぎないから出来る経験、それも学びですね。お母様の観察眼とコミュニケーション力も、お話しの背景から見えてきました。
(50代/障害当事者のご家族、公務員)
- ・経験談を交えたうえでのテーマに沿う展開がわかりやすく良かったです。私も常に普通ってなんだろうという疑問のもとで生活しています。結局のところ普通なんて存在しないし、障害というものがあるなしに関わらず幸せになることはできるはずだと考えていましたが、今回の話を聞いて自分の意見と同じ人がいるんだと嬉しく思いました。また、こういう考え方を持つ人が1人でも増えたらきっと素敵な世の中になると思います。(20代/社会教育・生涯学習関係職員、公務員)

<YOUTUBEコメント(一部抜粋)>

- ・発達も知能も小学生程度なのに普通の一般の人たちよりも早く社会に出て働かなければならないのが、何故なのだろう？と思っています。
とても不安です。
- ・特別支援学校に通ってる子は、人より時間をかけて学ばなきゃいけないのに、18歳で社会に放り出されるんですよ。高等部と就労の間が埋められるといいと思います。
- ・当事者の不安や問題をあまり知らなかったのもっと知りたいです。
- ・日本の場合は子どものうちは相談機関も、学校も、病院も対応が可能である程度の選択肢がある。18歳以降は法的にも突然、相談機関も公的支援もなくなる。ドイツのように支援校も解体し、地域のスポーツクラブ型世代でいられる居場所があるといいと思う。
- ・ホントに、手続き大変ですよ。福祉サービス受けるのも。おむつなど日常生活用具の申請とか。早くデジタル庁の機能が充実して、スマホやパソコンで申請できるようになってほしいです。
- ・岸田奈美さんの実体験が私たちに力をくださる...!
- ・怒り、悲しみがエネルギーになり、こんな素晴らしい活動になるのですね。
- ・障害者でなければヘラルボニーと契約できないのか、障害もってたらよかったのにと、普通の人達が思うくらい羨ましがられる企業になってほしいです!
- ・私も怒りや恐怖を何か別のものに昇華させることを、みなさんから考えていきたいです。

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・岸田さんの話しよくわかります。家族は大変だと思われがちです。
大変だと言わないと支援につながれない今の社会は変だと思います。
- ・学習って一方的に教えることではなく本人に何か新しい発見や実感ができる環境や場、機会を作るのが生涯学習教育にも必要ですね。
- ・障害や障害のある家族を恥ずかしいと思わなくなるのが、共生社会が実現されている、と言えるのかな。
- ・障害は個性でなく個別性だと私は思う。障害は取り外しが利かない。
- ・乳幼児の発達支援施設で働いています。乳幼児期の支援はお家の方との共同が不可欠です。でも、支援の押し付けは違うと思っています。
家族の希望を思いを聞いた上で支援を提案していますが...どう声かけをすることがその子にとって家族にとって光になるのか悩みです。
今日は家族視点の話がきけてよかったです。
- ・成人の障害のある娘がいます。日々の工夫で今があります。
言葉にしてくれてありがとうございます。
- ・障害者に対して優しい世界になるといいなと思います。
- ・障害の観点だけでなく深く広いことに考えさせられました。
- ・”お互い様”で支えあえる社会がいいですね！
- ・病気が障害は人と人のあるもので人間以外の動物には存在しない気がします。人間のという文字の”間”の部分なのかなと思いました。
ありがとうございました。



2021.9.18.(sat) 13:00-14:45

主催：NPO法人ピープルデザイン研究所

<視聴者数>

- 配信時の視聴者数 : 74人
- 9月末時点の視聴者数 : 468人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



<概要>

ピープルデザイン研究所が川崎市と共に拡大展開している、障害者が“晴れの舞台”で働くことを通じて学び、社会参画を目指す、「就労体験プロジェクト」。4名のゲストがプロジェクトにより、障害当事者や支援者、クラブや企業などに生まれた学びについてセッションしました。

<登壇者>

- 川崎市健康福祉局障害者社会参加・就労支援課 雇用就労推進担当
山田 征子 氏
- 株式会社藤枝MYFC 代表取締役
徳田 航介 氏
- 新潟市社会福祉協議会 社会福祉士/福祉教育推進員
渡邊 雅弘 氏
- NPO法人ピープルデザイン研究所 理事
鈴木 順 氏

<会場・配信の様子>



<アンケートの感想>

- ・ 重度重複障害者の21歳の娘の学びを考える時、とても大切なお話しばかりでした。全国各地のこのような動きは、まず娘と 個人的に動きく事でも、変わってくる事かもしれないと思います。人と繋がり広がり、学びを止めず、娘が自立できるような道作りしていきたいです。
(40代/障害当事者のご家族)
- ・ 経験を積んだ方がはじめて参加した方に伝えていくことすごいと思います！ (20代/NPO等団体職員)
- ・ 他都市の事例が非常に参考になった。
「持続可能性」というキーワードが印象に残った。 (50代/会社員)

<YOUTUBEコメント (一部抜粋) >

- ・ 越境するのいいですね。特別支援いいですね。 (YOUTUBEコメント)
- ・ 「ありがとう」大事ですね。 (YOUTUBEコメント)
- ・ 学びになります！ (YOUTUBEコメント)



2021.9.18.(sat) 15:00-16:30

主催：渋谷区

< 視聴者数 >

- 配信時の視聴者数 : 80人
- 9月末時点の視聴者数 : 310人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



< 概要 >

法定雇用率にとられない新しい働き方「超短時間雇用(ショートタイムジョブ)」が渋谷区でスタートしています。渋谷区内で超短時間雇用を推進していくためのキーマンが集まり、それぞれの取り組みを紹介しました。

< 登壇者 >

- 東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 特任准教授/理学療法士 松清 あゆみ 氏
- 渋谷区福祉部障がい者福祉課長 齋藤 貢司 氏
- 渋谷区障害者就労支援センターハートパレードしぶや 統括長 原 真衣 氏
- NPO法人ピープルデザイン研究所 ファウンダー 須藤 シンジ 氏

< 会場・配信の様子 >



<アンケートの感想>

- ・わたしは持病のために外出に制限がありますが、障害者手帳を交付されない病名であり、難病に指定されていないので、就労支援施設にも通えません。
わたしのように制度のはざまにいる長期療養者にも就労支援施設で就労プログラムが受講できたりすることを望んでいます。
渋谷区の方達に制度のはざまにいる人たちについてどう思っているかお聞きしたいです。（40代／東京社会福祉会所属社会福祉士）
- ・超短時間雇用はとても素晴らしい制度ですが、「障害者手帳を交付されている人」に限定されているため、問題があると思う。
渋谷区に住んでいて、そういう制度を利用したいが手帳が交付されないため受けられない。
はじめた気持ちになるととてもつらいのです。どうか重層的支援体制を渋谷区も導入して、もって多様性に対応してほしいです。
斎藤さんにお聞きしたいです。
(30代／障害者手帳がもらえない有病者)
- ・他都市の事例が非常に参考になった。
「持続可能性」というキーワードが印象に残った。
(50代／会社員)
- ・自分がやってみたいことのヒントになりました。
「超短時間雇用と積算雇用率」というキーワードが印象に残った。
(50代／NPO等団体職員、福祉事業所職員、障がい者スポーツ指導員)



2021.9.18.(sat) 17:00-18:30

主催：一般社団法人WheelLog

< 視聴者数 >

■ 配信時の視聴者数 : 164人

■ 9月末時点の視聴者数：2,357人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校 チャンネルへ移動します。



< 概要 >

テクノロジーの分野で活躍する4名のゲストが、特別支援学校等におけるアプリを活用した授業の紹介や、障害のある児童生徒の外出に必要な環境など、今後テクノロジーを活用しながら積極的に外出し、社会参加していくために必要なことについてセッションしました。

< 登壇者 >

■ 島根大学総合理工学研究科助教

伊藤 史人 氏

■ 株式会社オリィ研究所 代表取締役所長

吉藤 オリィ 氏

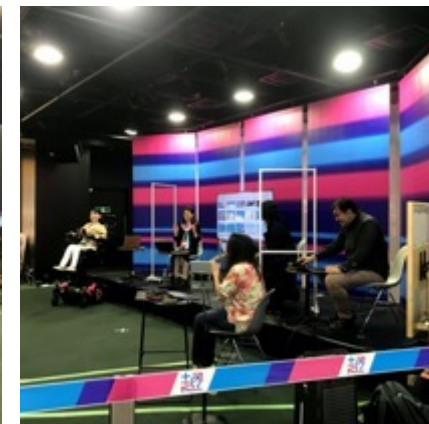
■ 心のバリアフリークリエイター

加藤 さくら 氏

■ 一般社団法人WheelLog 代表理事

織田 友理子 氏

< 会場・配信の様子 >



<アンケートの感想>

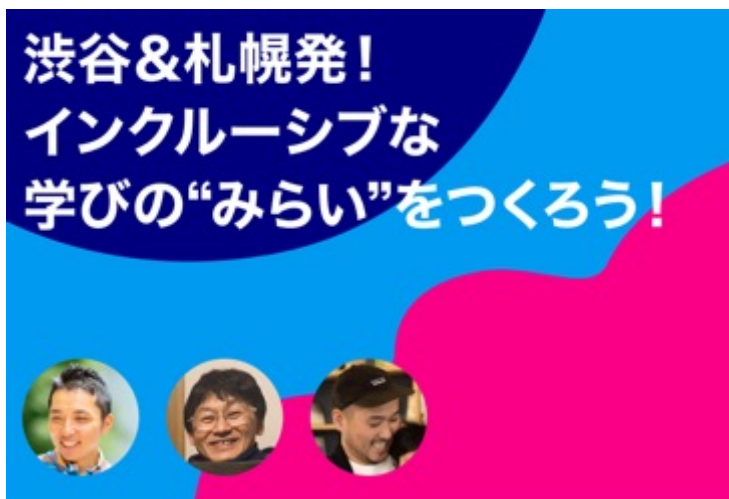
- ・ Damnの情報すごくいいです。会社の食堂にも提案してみます。
(40代/会社員：国際団体の理事)
- ・ 数年前にこのイベントに参加して、wheelog使って周辺を歩いたのを思い出します。それからwheelog使ってます。
これからも福祉の心を広げていきたいと思います。
(40代/特別支援教育教職員)
- ・ 前向きに、言われっぱなしにならないよう、出来る事から始め続けます。
(50代/特別支援教育教職員)
- ・ 支援学校というところがどんなことをやっていて、何が足りていないのか、少しわかった。 (60代/会社員)
- ・ 普段聞けない話して、気付かされる意見だった。障害を持つ方との距離を縮められたらいいと思います。 (50代/会社員)
- ・ オリィさんの活動や分身ロボットカフェのことは以前から応援していましたが、wheelogや食事に困難を伴う方のことをよく知ることができました。
伊藤さまの「美人だから」「おばちゃんだから」という発言は差別的で聞き苦しく、非常に不快でした。 (30代/障害当事者のご家族、会社員)
- ・ 患者力 織田友里子さんすごく素敵です。
皆さん、自然体で嬉しくなりました。 (50代/障害当事者のご家族)
- ・ 障害をお持ちの方をご支援するテクノロジーがあることを知っているだけでも、諦めない気持ちがうまれる。 (40代/会社員)
- ・ コロナ禍で、学校へのICT導入について、先日行われた日P九州大会のディスカッションの内容などを学内に伝えたりしていましたが、息子が学習障害（書字読字の不得意）があり、今年度から支援学級にお世話になっており、素晴らしいサービスが使えない現実などにも直面していたので、とりあえず始めていくことやお互いが役立つフラットさの大切さなど、とても参考になりました。
さらに、自分も幼少の頃から自己免疫疾患がありますが、出会いに恵まれて、面倒は感じて、特にそれによるストレスは感じずに来れましたが、自分の中でも中でも解明出来ていないポジティブさの作り方が、オリィさん、織田さんのお話、また支援者の立場からは、再びオリィさん、加藤さん、伊藤先生のお話でとても立体的に理解できました。
ジョンソンさんの司会もとてもよかったです！！
(40代/障害当事者のご家族)
- ・ 具体的な使い方を知ることができた。 (30代/福祉事業所職員)
- ・ 支援学校の可能性を感じたことと学校の先生の実際の様子がわかってこれからの課題もあることに気づきました。
(40代/障害当事者のご家族)
- ・ とにかく明るく、面白く、沢山笑いました。元気が出ました、ありがとうございました！（特別支援学校に通う小学一年生の自閉症の女の子の母）
- ・ 私は、障害のある娘を授かったことがきっかけで、現在は特別支援学級がある地元の小学校で、支援員の仕事をしています。肢体不自由児の子どもたちの学級と、知的障害の子どもたちの学級があります。
タブレットが生徒全員に配られましたので、伊藤先生に、ぜひ見学に来ていただきたいと思いました！笑 (40代/障害当事者のご家族)

<アンケートの感想>

- ・ とにかく登壇者と司会が明るく、面白すぎた。
 障害児とその子を取り巻く環境のイメージを変える影響力があるのでは。
 障害のある子の能力を、周りの大人（支援者）が信じることという言葉が
 印象に残った。
 自閉症の娘は、ICT推進校の特別支援学校に通っているのですが、
 今回、知的に遅れがある子どものICT活用についてはあまり触れられて
 いなかったので残念でした。知的障害児者とその家族がいかに社会参加
 していくかという視点も入れて頂けると嬉しいです！
 (40代/障害当事者のご家族)
- ・ 福祉がテーマだとまじめな内容のイメージでしたが、登壇者、
 司会者の方の話がとてもおもしろくて、何度か吹き出しました。
 楽しく福祉を学べて、とてもよかったです。
深く考えずに何でもやってみようと思った！ (40代/会社員)
- ・ 社会にあること、本音をサラッと話してくれていた。
 最新の情報を惜しみなく紹介してくれました。
 「人が集まってくれる人になる」というキーワードが印象に残った。
 (50代/障害当事者のご家族)
- ・ 寿司と美人・・・という話題が突出して、支援を受けられる人に格差がある
 ことを印象づけてしまったところが大変残念です。
 オリイ研究所の吉藤さんがほかのシンポジウムでおっしゃっていた
 「ロボットだから、容姿が関係ない。引っ込み思案な人も対面で
 コミュニケーションできて就労できる」というところに感銘を受けたの
 に、
容姿のいいひとのほうが優位性をもつみたいなお話になって聞いていて
 しんどかったです。
 しょうがいを持った人は経済的にギリギリで生きていたりするのでもっと
 希望の持てる話を聞きたかったです。応援しようという気がなくなって
 しまった。とても残念です。(30代/研究者)
- ・ オリィさんのツイートを見てシンポジウムを視聴させていただきました。
 たまたまツイートを見つけた時間が17時頃で、おっ、これは何者かに
 呼ばれたなとわくわくしながら拝見させていただきました。
 『弱者に優しい世界は健常者にとっても生きやすい世界』が私の
 スローガンで、次の世代の世界は今よりもっと優しい世界になると
 信じています。前を向いていまを生活している方たちのいいエネルギーを
 浴びて幸せな時間でした。私も今を一生懸命いかげんでがんばります！
 今後も皆様のご活躍を祈っております。アプリ、ダウンロードしてみよう
 と思います。ありがとうございました。(40代/その他：職業訓練性)
- ・ 司会の方の発言が不愉快。その他、登壇された方の話はよかった。
 (30代/特別支援教育職員)
- ・ 聞きやすく、すごく勉強になりました！ (10代/大学生)
- ・ 伊藤先生のご紹介で拝聴しました。
非常に示唆に富んでいるだけでなく、テンポよく、ユーモラスで
 面白かったので、知人にも勧めました。
 ほかのシンポジウムも拝聴しようと思います。
 支援学級で生徒1人に対し先生が1人ついているものの、
 テクノロジーなどをフル活用し生徒の可能性を引き出し切れていない
 現状があることや、Wheelogの取り組み、分身ロボットによって
 行動範囲が広がったり雇用につながったりしていること、
 トイレの不便さが外出のハードルを上げていることなど。
 (イベント感想) より多くの方に知ってほしいなと感じました。
 Wheelogのクラウドファンディングも調べてみます！
 (30代/会社員)

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・トイレがこんなに大変って認識不足でした。
- ・内容に加えて、テンポとノリが良くてポジティブな話し方に引き込まれます。
- ・摂食嚥下調整食の成人の障害のある娘がいます。外食で、メニューにそのまま食べれる物ができないかなあ〜とずっと願っています！
ダウンカフェ伺わせていただきます。
- ・潜在的な能力の客観的計測が支援学校でも行われるべき。
計測に基づく指導計画の作成と、評価。
- ・先生がテクノロジー苦手なのが大きな課題な気がする！！
- ・本人だけでなく、支援する人のモチベーションも一緒にあげることは、重要だなあ、と感じます。
- ・飲食店開始するために必要な資格に、バリアフリーのことや嚥下食についての研修をマストにしたら、少しでも対応するお店が増えないかなあ
- ・自分で自分の介護...！ その発想はなかった。これ、みんなが欲しい！！
- ・コロナ感染予防でリモート授業の支援級に導入したい。
- ・コロナ禍だと、人よりロボットのほうが接客はお互いありがたいかもしれない。
- ・通常の福祉のイメージを超えて、おしゃれで楽しくておいしいのが素敵。
- ・IT企業が学校・保護者にIT教室として応援が必要ですね。
- ・デジタルネイティブの人たちとのコラボはすごくいいですね！！
- ・いつそこにあいたくなる場作り/コミュニティ作りから、良いループが生まれていきますね。
- ・みんなで、自分たちの街を知る！
- ・息子の支援学校の担任の先生に『このYouTubeから見て！』と紹介してみようかな...
- ・ワクワクするトークショーでした！ ポジティブに、仲間を広げていく、大事だなあ、と改めて感じました！ありがとうございます！
- ・私も関わっていきたいと思いました！ありがとうございました！
- ・とても有意義な話が凝縮されています！！障害あるなしに関わらず観て聞いて知って欲しい内容です。楽しくてあつという間です！
- ・すごく面白くて、大切なオンライントークをありがとうございました。オリィさんのところだけ3倍速になって楽しめました！
織田さん支援させていただきました。
もっと沢山の人が見てくれると良いのにな。
- ・さすがのオリィさん内容が濃い！
セルフリハビリが出来る車いすをお願いします！！



2021.9.18.(sat) 19:00-20:30

主催：文部科学省

< 視聴者数 >

- 配信時の視聴者数 : 75人
- 9月末時点の視聴者数 : 406人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



< 概要 >

渋谷&札幌でインクルーシブな学びの“みらい”づくりを実践されている3名のゲストが、障害の有無にかかわらず誰もが共に生きるための学びについて、考えを深めるセッションを行いました。

< 登壇者 >

- 文教大学人間科学部准教授
/文部科学省「障害者の生涯学習の推進を担う人材育成のあり方検討会」委員
青山 鉄兵 氏
- 渋谷区・知的障害者幡ヶ谷教室GAYA運営委員長
浦野 耕司 氏
- 札幌市・みらいつくり研究所 学びのディレクター
松井 翔惟 氏

< 会場・配信の様子 >



<アンケートの感想>

- ・ ついつい最後まで拝聴しました。(50代/障害当事者のご家族)

<YOUTUBEコメント (一部抜粋) >

- ・ 地域の市区町村の障害福祉課と教育委員会の連携が大切かなあと。
なんだか分けて区別してって感じが、まだまだ現実かな。
がやの取り組みに励まされます。 これからです
(YOUTUBEコメント)
- ・ 探求し続ける学びの場、開かれた学びの場がまさに社会教育ですね！
(YOUTUBEコメント)
- ・ 学びの内容は、その人が何を学びたいかなのだなあと、改めて、
学びもそれぞれなんだと思います！ (YOUTUBEコメント)
- ・ 共に学ぶ仕組みはとても大切です。学びは人との出会いであり、
この出会いが人生が変わるきっかけとなり、豊かな人間性を育む
ことにつながりますね！ (YOUTUBEコメント)



2021.9.19.(sun) 11:00-12:30

主催：NPO法人アクセプションズ

< 視聴者数 >

- 配信時の視聴者数 : 71人
- 9月末時点の視聴者数: 779人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



< 概要 >

ダウン症の当事者を含む3名のゲストが「働くこと」と「余暇を楽しむこと」をテーマに、障がいのある人が自立し充実した毎日を送るヒントを発信しました。

< 登壇者 >

- NPO法人AloneAlone理事長/NPO法人ハンズオン東京理事
那部 智史 氏
- NPO法人アクセプションズ理事長
一般社団法人しごと・しあわせラボ代表理事
NPO法人ピープルデザイン研究所理事
東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター協力研究員
古市 理代 氏
- 経済キャスター/NPO法人アクセプションズ理事
長谷部 真奈見 氏
- 就労継続支援B型利用中/俳優
神子 彩 氏
- 社会福祉法人 夢工房 夢花保育園勤務
松山 愛 氏

< 会場・配信の様子 >

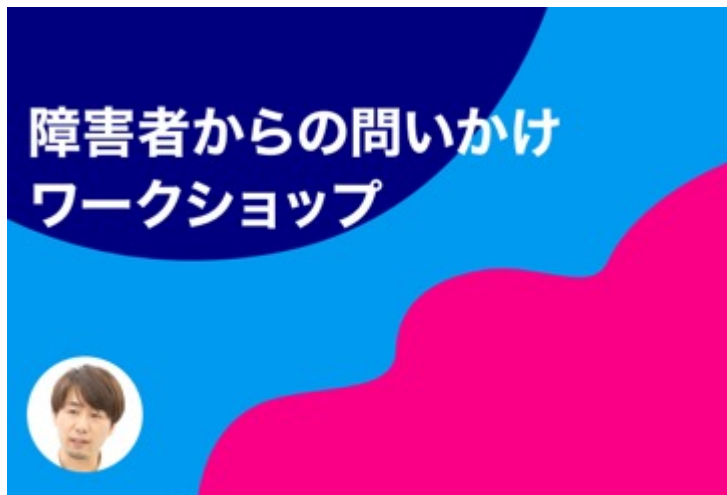


<アンケートの感想>

- ・なべさんのポジティブな発想とアクションがとても素敵です！
障害のある人がいろいろなところで強みを発揮して欲しいです。
古市さんが、息子さんと過ごすゆるやかなほっこりとした時間と生活を
楽しんでいるのが羨ましく感じました！（50代／回答なし）
- ・とても良いシンポジウムでした。登壇者の皆さんの愛が溢れている
トーク、じっくり聞かせていただきました。
 私自身も視覚障害のある子どもがいます。
 シンポジウムの中でおっしゃっていた子離れ、目下のテーマです。
将来は明るい！当事者の親ができることはまだまだたくさんある！と
感じました。ありがとうございました。
 （50代／障害当事者のご家族）
- ・9歳のダウン症児の親という立場で、子どもの将来を考える貴重な機会と
なりました。特別支援学校を出た後、リカレントも含めた幅広い選択肢が
あり、子どものキャリアデザインを視野を広げて考えることが重要という
気づきをいただきました。登壇された方々の魅力的な活動に刺激を
受けました。私たち家族もできることから一つひとつ形にしていきたいと
決意を新たにしました。本当にありがとうございました。
 （40代／障害当事者のご家族、学校教職員、研究者）
- ・当事者の話を聞くことができてとてもよかった。
「学びの多様性」というキーワードが印象に残った。
 （30代／社会教育・生涯学習関係職員）
- ・就労Bでもやり方を変えれば就職率が上がるということを実感。
親が心配しすぎて子供の成長を止めてしまっているということに
気づいた。（50代／会社員）
- ・障がいのある子の親からの意見は、説得力があり、同感出来るところが
とても多かった。ダウン症の2人が、自信に満ちて生きている姿はとても
ステキでした！
 那部さんの実行力に、同感して続いて下さるような方が一杯でてきて
 欲しいと、心から願っています。この子が生まれてきてくれたお陰で
人生が変わった。全く同感です。（70代／障害当事者のご家族）
- ・当事者本人の発信をきっかけとした情報共有が、社会変容につながる
可能性を感じました。
 （40代／学校教職員、研究者、障害当事者のご家族）
- ・お二人の活躍している様子がわかり、たくさんの人への希望に繋がる
ような内容だったことがとてもよかった。
いかにたくさんの方にチャレンジさせる機会を、親や周りの大人が
与えられるか、その中から子どもがやりたいことを選び続けていくこと
できるかが大切だと感じた。（50代／福祉事業所職員）

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・企業様とのコラボ素敵ですね！商品を通じてさらに周知が広まる事も
 考えられそうだと思います。（YOUTUBEコメント）
- ・お二人とも、いろんなことにチャレンジしていて素敵です！
 本当に聞いていて心地よいです。（YOUTUBEコメント）
- ・お二人とも本当に素敵ですね！私もゆったりほんわか穏やかな気持ちに
 になりました（YOUTUBEコメント）



2021.9.19.(sun) 13:00-14:45

主催：文部科学省

<参加者数>

※ クローズドで開催

■ 参加者数：40名

(一般28名、サブファシリテーター8名、当事者8名)

■ アーカイブ動画

※後日HPに掲載いたします

<概要>

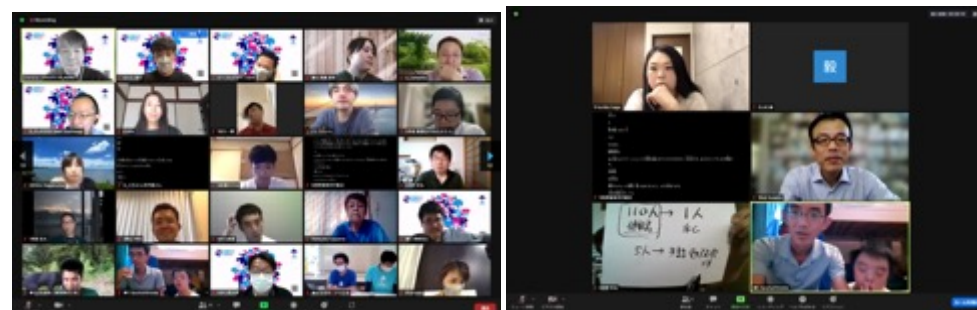
いつもは問われる側の障害者から投げかけられる様々な問いかけに、少人数で応答しあい対話を行う、完全オンラインの新感覚ダイアログワークショップを行いました。

※後日、ダイジェスト版のアーカイブ映像を配信。

<進行>

■ 一般社団法人PLAYERS リーダー/インクルーシブデザイナー
タキザワ ケイタ 氏

<会場・配信の様子>



<アンケートの感想>

- ・当事者の声をたくさん聞けて、自分のイメージを確認できた。
障害者は先に行く人：困りごとを把握＋発信できる。強みを発見＋力にできる。という話が印象に残った。(20代/公務員)
- ・直接、障害者の方と話ができたことはすごく新鮮でした。
コンビニでのおにぎりをどんなふうを買えばいいのか悩んだ。
視覚障害者の立場で。
本当にいい機会だったので、また参加したい。(40代/公務員)
- ・逆の感覚を学んだ。
コミュニケーション、手話を学んだ。(20代/障害当事者)
- ・一つだけの参加ですが、気づきが多かったです。障害者の毎日の暮らしのストレスに気づきました。「視覚障害者がコンビニで好きな味のおにぎりを選べないストレス」という話がとても印象深かったです。
もう少し長い時間が欲しいです。特に聴覚障害者とのチャットは誤字なく文字を打ち込む時間が必要です。(50代/会社員)
- ・色々なグループで課題を出し、みなさんと共有できることは勉強になりました。素敵な企画でした。
障害者という枠をなぜわざわざ組まなければならないのでしょうか。
インクルーシブな時代にふさわしいこれからの組み合わせに期待したい。
意義のあるオンラインでした。
(50代/NPO団体職員、会社員、障害当事者)
- ・チャットでも書いたことですが、僕は視力矯正の不具合を抱えており、悩んでいます。高橋さんのグループで、「障害者の強みとは？」という問いを頂き、僕は障害ではなく、不具合を抱えている当事者ではありますが、そんな不具合を抱えた自分の感性や経験は、この社会をより良くしていくことに活かせる、と、自分の強みを話していました。その強みは障害を抱えている人にも共通していると思います。現状の印象としては、特定の障害を抱えている人たち同士でつながり合って、自分たちの障害ではない障害の人や、それ以上に障害という枠に入らない不具合を抱えている人に対する関心は少ないように感じます。また、福祉という言葉が、障害のある人たちに多く与えられているような気もします。そのような中、不具合を抱えている人と障害者という枠に入っている人たちが共通の強みを見出せたのは良かったと思います。
聴覚障害のある方の問いに上手く答えられず、また、良い対話が行えなかったような気がするので、その点が少し残念でした。
(30代/視力矯正の不具合を抱える当事者)
- ・参加型のワークショップがあり、意見交換できたというのがよかったと思います。健常者側として参加した方たちも色々な背景の方がおり、障害者と健常者という区別はナンセンスになっていくのだなと思いました。
(40代/福祉事業所職員、研究者、会社員、障害当事者、障害当事者のご家族)

<アンケートの感想>

- ・ 当事者本人の発信をきっかけとした情報共有が、社会変容につながる可能性を感じました。
(40代/学校教職員、研究者、障害当事者のご家族)
- ・ ただただ、話しているのが楽しかった。いつもとは違う問われることで考えて答えて、そのことに肯定的に受け止めてくれる場が素敵でした。
問いによって、脳にも心にも汗かきました。
怖がっていた自分にも気がつきました。
時間が許せば、もっと多くの人と話したかったです。
また参加したいです。(40代/会社員、その他：医療従事者)
- ・ 障害者当事者から 社会参加の壁を乗り越えるアイデア出来た良かった。
(50代/障害当事者、会社員)
- ・ ダイアログ形式のワークショップが、思った以上に話をしやすく、楽しかったです。盲の方へお手伝いを申し出るときに「私につかまってください」と声かけをすること。介助される方が主体だということを忘れないようにします。(60代/障害当事者のご家族)
- ・ 自分と違う境遇の人たちからの問いかけについて深く考えることができ、とても有意義な時間でした。
自分は精神障害があるのですが、自分とは違う障害を抱えている人の目線に立って考えることができ、その人にとって何が本質的な障害なのかを知るきっかけになりました。
もう少し参加者とお話する時間があれば良かったと思いました。
できれば全員の方とお話したかったです。(20代/大学生)



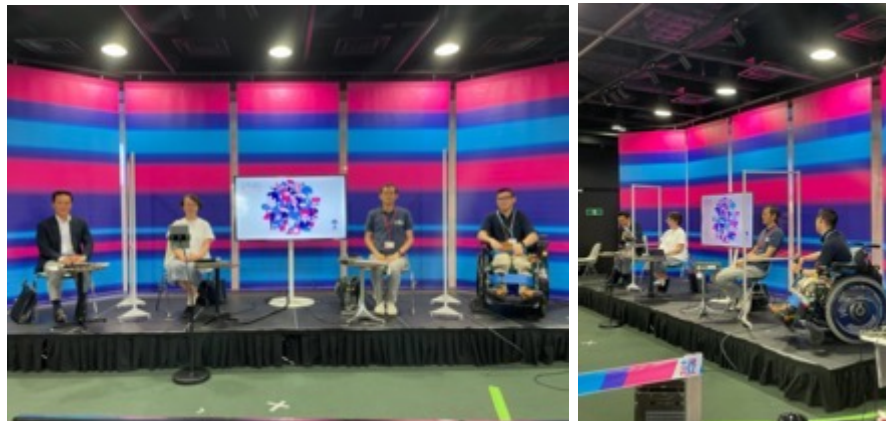
2021.9.19.(sun) 15:00-16:30

主催：ソフトバンク株式会社

< 視聴者数 >

- 配信時の視聴者数 : 73人
- 9月末時点の視聴者数 : 747人

< 会場・配信の様子 >



< 概要 >

ソフトバンク株式会社が主催する「魔法のプロジェクト」の実践研究に参加した先生と生徒が教育の場でのICTを活用した学習と、自立後に学びがどのように役立っているのかのリアルを対談でご紹介しました。

< 登壇者 >

- ソフトバンク株式会社 「魔法のプロジェクト」ディレクター
東京大学 先端科学技術研究センター 協力研究員
SNラボ塾長
社会情報大学院大学実務教育研究科MI
佐藤 里美 氏

- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官
(肢体不自由教育担当)
菅野 和彦 氏

- 神奈川県立平塚養護学校教諭
児山 卓史 氏

- 湘南農業協同組合/神奈川県立平塚養護学校卒業生
佐々木 景都 氏

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校
チャンネルへ移動します。



< アンケートの感想 >

- ・高校で出会った、児山先生とのICT機器への取り組みと電動車椅子が社会へ羽ばたく翼を大きく広げてくれたんだなあと感じました。が、何より、佐々木さんの常に前向きで、エネルギッシュな姿勢が全ての原動力なんだろうなと思いました。
「工夫すれば何とかなる」という言葉。響きました。(50代/学校教職員)
- ・佐々木さんの前向きなコメントがよかった。
ICTが役に立っていると感じました。(50代/会社員)
- ・佐々木さんの高等部での取り組みによる成長が、企業就職に繋がり、就職後も活躍し、余暇も充実していることがわかり、とても参考になりました。
明るく前向きな佐々木さんに励まされました。学校でこのような取り組みが行われていることの素晴らしさを広めて行って欲しいと思いました。(40代/公務員)

<アンケートの感想>

- ・高校で出会った、児山先生とのICT機器への取り組みと電動車椅子が社会へ羽ばたく翼を大きく広げてくれたんだなあと感じました。
が、何より、佐々木さんの常に前向きで、エネルギッシュな姿勢が全ての原動力なんだろうなと思いました。

「工夫すれば何とかなる」という言葉。響きました。

本日は、ありがとうございます。勉強になりました。

(50代/学校教職員)

- ・学校卒業後の支援が制度として確立されることを期待したい。
(50代/障害当事者のご家族)
- ・佐々木さんの高等部での取り組みによる成長が、企業就職に繋がり、就職後も活躍し、余暇も充実していることがわかり、とても参考になりました。明るく前向きな佐々木さんに励まされました。
また、学校でこのような取り組みが行われていることの素晴らしさを広めて行って欲しいと思いました。(40代/公務員)
- ・ICTの活用で世界が広がり、生き生きと生活している景都さんの様子がとても輝いていた。
(50代/特別支援教育職員、学校教職員、障害当事者のご家族)

- ・ぐんぐん成長される佐々木さんのご様子にうれしくなりましたし、見守るみなさまのあたたかさにもぐっときました。
学校Wi-Fi繋げない話！セキュリティ面などご検討いただき、なるべく早く繋がらせて欲しいです。また学校支給の端末はせっかく1人一台なのに、アプリ等でカスタマイズ出来ない（特に有料アプリ）ノートアプリとか、シンプルマインドとかは入れたいです。(50代/障害当事者のご家族)
- ・景都さんが小学校一年生当時、私は介助員として一緒させていただきました。ちょっとシャイだけど楽しいお子さんでした。立派なお兄さんになりましたね。これからも応援しています。
将来を見据えた支援は宝ですね。(50代/会社員)
- ・佐々木さんの前向きなコメントがよかった。
ICTが役に立っていると感じました。(50代/会社員)

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・当事者の声として、社会の課題を共有し、改善をはかるプレゼンを市長に届けるのはすごいですね。改善できた頃を実感し、外出にもつながる自信をICTの活用で得るのはすごいですね。
(YOUTUBEコメント)
- ・できるの扉を開くと、そのあと探求していく姿勢はとても素晴らしい。視線が動いても世に戻ることが大変なのかなと思うのですが、表現方法の工夫で、クリアしていったのも素晴らしい。(YOUTUBEコメント)



2021.9.19.(sun) 17:00-18:30

主催：NPO法人ピープルデザイン研究所

<視聴者数>

- 配信時の視聴者数 : 45人
- 9月末時点の視聴者数 : 343人

<会場・配信の様子>



<概要>

渋谷区のビジョンである「ちがいをちからに変える街」。それぞれの立場で子供の学びに深く関わっている4名のゲストが、各々違った視点で、コミュニティのあり方や、ちがいを知り、ちからにしていく具体的な学びの実践方法について、本音で語り合いました。

<登壇者>

- まちの保育園・こども園 代表/まちの研究所株式会社代表取締役
松本 理寿輝 氏
- HILLOCK初等部スクールディレクター
蓑手 章吾 氏
- カウンセラー・コーチ
たまお ひろこ 氏
- NPO法人ピープルデザイン研究所 ファウンダー
須藤 シンジ 氏

■視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



<アンケートの感想>

- ・「成功はないけど、成長できる」という言葉が印象に残った。
(40代/自営業)

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・学びは楽しい！どんな子どもにもそう感じてほしいです。
評価のための学びではなく、探究心を満たすための学びが当たり前になれば学歴重視でない社会になりそうですね。
- ・多数決は、弱者の意見の切り捨てなんじゃないかと、
子どもの頃からずっとモヤモヤしてきたので、こういう話を聞くと
すごくスッキリします！！最近はやっとこういう議論もきくようになり、嬉しい。
- ・多数でいることの安心と違うことの心理的な安全の担保の共存は
難しいですね。
- ・そもそも、教育ってなんのため？ってみんなでふりかえってみる、
お手紙を毎週書くくらいの頻度できちんと考えや思いを届けて理解を
得ながらやられていたんですね。周りを巻き込み理解を得ることがやはり
大事なのだと知りました。ありがとうございます！
- ・ゆるいつながりが複数ある社会って、いいですね。



2021.9.19.(sun) 19:00-20:30

主催：文部科学省

<視聴者数>

- 配信時の視聴者数 : 44人
- 9月末時点の視聴者数 : 428人

■ 視聴QRコード

※YOUTUBE超福祉の学校チャンネルへ移動します。



<概要>

障害者権利条約の批准、そして超福祉展のスタートから7年。2021年、日本社会はどのように変わることができたのか、あるいはできていないのか。様々なソーシャルアクションを展開されてきた3名のゲストが語り合いました。

<登壇者>

- 文部科学省スペシャルサポート大使
/一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 (PAJ) 会長
大日方 邦子 氏
- NPO法人スローレーベル 理事長
栗栖 良依 氏
- NPO法人アクセプションズ理事長
一般社団法人しごと・しあわせラボ代表理事
NPO法人ピープルデザイン研究所理事
東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター協力研究員
古市 理代 氏

< 会場・配信の様子 >



<アンケートの感想>

- ・パラリンピックでボランティアをしまして、このシンポジウムを楽しみにしてました。(50代/会社員)
- ・パラリンピックの開閉会式を大変な状況下で乗り越えられたお話を、笑顔で聞けたところがとても良かったです。「レガシー」というのはとてもキーワードだと思いました。(40代/障害当事者)
- ・まさにイベントの中核におられた、障害を持つ当事者ならではのリアルな意見がたくさん出ていて、さらにチャット欄の書き込みも賑わっていたのが良かったです。
やりたい人はやればいいし、そのための選択肢がたくさんあることが大事である。やりたい人を応援する。やりたくない人には無理にやらせない。応援したいと思ったら素直に応援するし、興味がなければそれまで。シンプルなことです。
「見えないのに凄い」「車椅子なのにすごい」論調をなくし、その人「個人」を見られるような社会に変えていくことが大事です。(40代/NPO等団体職員、研究者、障害当事者)

<YOUTUBEコメント（一部抜粋）>

- ・日常生活でも、自然に助け「あえる」といいですね。一方的な「助ける」ではなく。
- ・パラリンピックの開閉会式には、重度の障害のある人が居ても競技に出れる人は限られています。その部分に矛盾があるような気がしました。
- ・そういえば、うちは開会式を見てディズニーランドのパレードみたい！って言ってました。そういうところから気づぎが生まれたら、そういうことでもいいのかなと思いました。
足りない部分は大人が補完すればいいのかなと。
- ・「障害を乗り越えて」という言い方が特にメディアから無くなることを期待しています。
- ・車いすバスケは実力もありましたし、カッコいいと憧れる声もありました。パラスポーツという枠を乗り越える可能性を感じました。
- ・感動しました！ありがとうございました！
- ・障がいの害は社会が生み出したものだと思っているので、自分は何ができるかわかりませんが一歩進みたいと思います。
ありがとうございました。

その他イベント・就労体験

渋谷区中央図書館に「りんごの棚」設置！

超福祉の学校プロジェクトから派生した「りんごプロジェクト」。デジタル図書やアクセシブルな本を、一度に体験できる場をつくる「りんごの棚」が渋谷区中央図書館に常設されました。超福祉の学校HPのイベントページにて、その様子と渋谷区中央図書館 館長 勝部様からのメッセージをご紹介します。



「りんごの棚」
イベントページ
(超福祉の学校HP)



「LiveTalk」を使って来場者のコミュニケーションをサポート！

富士通ソーシャルサイエンスラボラトリのFUJITSU Software LiveTalkの「音声認識技術」と「多言語翻訳技術」を使用して、視聴者に対してリアルタイムで文字に変換・翻訳し、聴覚障害を持った方や外国人のお客様のコミュニケーションをサポートしました。



※超福祉の学校HP、YOUTUBE
チャンネルの映像で実際に
LiveTalkを使用した様子をご覧
いただけます。



オンラインカフェ「アートでおしゃべり」を開催！

美術館のユニークな楽しみ方が体得できるオンラインでのアート鑑賞法「アートでおしゃべり」。シブヤフォントの原画を鑑賞するプログラムと、音のない静寂な中でコミュニケーションをとるサイレント版のスペシャルバージョンのプログラムの2種類を開催しました。



「アートでおしゃべり アーティストの視点」
イベントページ (超福祉の学校HP)



「アートでおしゃべり サイレント」
イベントページ (超福祉の学校HP)



超福祉オンラインショップ開店！

例年は会場で販売している、「困っていたら私に声をかけてください!」「ハンディがある方をサポートします!」という意味を表明できるアイテム「コミュニケーションチャーム」、超福祉展ムック本「超福祉SUPER WELFAREインクルーシブデザインの現場」をはじめとした関連グッズを、オンラインショップ (BASE/STORES) にて販売しました。



超福祉の学校
オンラインショップ
(超福祉の学校HP)



渋谷区内の福祉事業所と連携し「就労体験」を実施し、延べ6名の方にご参加いただきました。超福祉の学校準備期間から開催期間中、会場の渋谷ヒカリエにて、配信開始前の1時間、会場内の除菌・清掃業務を行っていただき、運営スタッフの一員として活躍していただきました。

< 就労体験の様子 >

< 実施概要 >

日時 : 9/17(金) 13:00~14:00
 9/18(土)、9/19日(日) 10:00~11:00
 参加事業所 : 1事業所 (みどり工房/個人参加)
 参加人数 : 延べ6名
 業務内容 : 配信会場、登壇者の控室等の
 除菌・清掃業務

< 参加者感想 >

- ・少しでも働く経験をしたかったため参加した。普段接触しない人たちと接触することは、貴重で楽しいと思った。普段あまり入れない場所に入れて、普段できないことができて楽しかった。(20代男性/発達障害者)
- ・将来就職するための第一歩として参加した。自信がついた。(20代男性/精神障害者)
- ・去年、超福祉展の就労体験に参加したことを覚えていたから今年も参加した。(40代男性/精神障害者)



コロナウイルス感染拡大の影響により、イベント自体は完全オンラインで開催。安全対策の観点、ならびに会場集客が多く見込めないことから、事業所の販売会は実施いたしませんでした。

そのかわり、ホームページ上で福祉事業所の製品販売情報、ならびに事業所紹介カタログのページを作成し、普及活動を行いました。

イベント終了後の現在も掲載を続けております。

< 掲載期間 >

9/8 から現在も掲載中

※ ホームページは約5万 ページビュー数があり、約1万3千人 が訪問（9月末現在）

< 掲載画像 >



開催前に、「NPO法人ピープルデザイン研究所 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン」を作成。
ボランティアを含む運営スタッフ向け以外に、出展社・登壇者様向けにも作成し、事前周知や対策のお願いをしました。
また設営・撤収・開催期間中は、感染症対策に十分注意し、検温・アルコールによる手指消毒などを徹底して行いました。

< 詳細 >

- ・ガイドライン作成（詳細は右記）、全運営関係者へ周知・順守の徹底
- ・全来場者へ入場時の検温、手指アルコール消毒、健康チェックフォーム入力の徹底
- ・運営スタッフ、シンポジウム登壇者は開催2週間前から検温・体調管理の徹底
- ・会場の換気、使用備品のこまめなアルコール消毒
- ・アルコール消毒を多数設置し常時使用できる環境を整備
- ・ソーシャルディスタンスを保った会場運営
（スタッフの業務配置・シフト計画、シンポジウム登壇者のステージ配置）

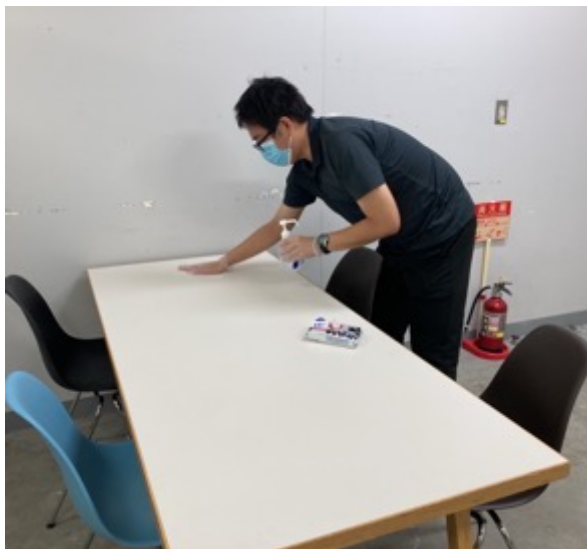
基本事項



運営スタッフ
ガイドライン



出演者様
ガイドライン





超福祉の学校@SHIBUYAにご支援・ご協力いただいた企業・行政・団体・学校の皆様、
ご視聴いただいた皆様、ボランティアスタッフの皆様に、
スタッフ一同心より御礼申し上げます。

また、来年お会いしましょう！